

浜中町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

浜中町では、釧路市まで運行している霧多布線において、厚岸線～浜中町間の利用者が大幅に減少しており、当該区間を継続して運行していくことが困難になっていることに加え、町内農村部を運行する町内巡回バスの利用者が特定少数となっているなど、町内公共交通網の効率化・合理化が求められていた。そこで、平成30年度から町民を対象とした生活交通に係るアンケート調査や町内公共交通の利用実態調査、町民との意見交換を実施し、町内公共交通網のあり方について検討を行い、令和2年5月に「浜中町地域公共交通網形成計画」を策定し、JR花咲線や都市間バス、霧多布厚岸線と連携した広域生活移動の支援、町内公共交通の利便性向上に資する公共交通網の構築、町民や観光客などを対象とした鉄道も含めた公共交通の利用を促す利用促進策の展開を基本方針として、町民の生活交通確保に努めることを目的とした。

この基本方針に基づき、町内公共交通網を構築すべく、地域公共交通確保維持事業として霧多布湿原線、茶内線及び浜中線を新たに運行することにより、町民の生活交通手段を存続させていくことが必要である。

生活交通確保維持改善計画の目標

令和5年 霧多布湿原線利用者数 目標値 3,150人
茶内線・浜中線利用者数 目標値 850人
(町内予約運行型交通)

車両減価償却費補助については、上記茶内線・浜中線に同じ

令和5年度事業概要

- ・霧多布市街地と茶内駅を結ぶ町営バスの運行
霧多布湿原線(霧多布温泉ゆうゆ～湿原センター～茶内駅)
霧多布湿原線系統1(霧多布温泉ゆうゆ～湿原センター～茶内旭～セイコーマート～茶内駅)
霧多布湿原線系統2(霧多布温泉ゆうゆ～浜中町役場前～湿原センター～茶内旭～セイコーマート～茶内駅)
- ・茶内地区と茶内駅を結ぶデマンドバスの運行
茶内線(茶内駅～茶内西～西円朱別～円朱別～茶内東～茶内駅)
- ・浜中地区と霧多布市街地を結ぶデマンドバスの運行
浜中線(浜中駅～熊牛～姉別～厚陽～貫人～奔幌戸～霧多布温泉ゆうゆ)

地域公共交通の現況

- ・JR花咲線(茶内駅、浜中駅、姉別駅)
- ・霧多布湿原線(2路線)、霧多布散布線(1路線)、霧多布厚岸線(1路線)
- ・茶内線(1路線)・浜中線(1路線)
- ・スクールバス(13路線)
- ・貸切バス(1社＝株式会社浜中運輸)
- ・都市間バス(1路線)
- ・タクシー(1社＝霧多布中央ハイヤー株式会社)

協議会開催状況

- 令和4年12月21日 第2回協議会を開催
・主な協議事項:地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について
- 令和5年6月28日 第1回協議会を開催(書面開催)
・主な協議事項:令和4年度事業報告
令和6補助年度地域内フィーダー系統確保維持計画について
- 令和6年1月15日 第2回協議会を開催
・主な協議事項:地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

令和5年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

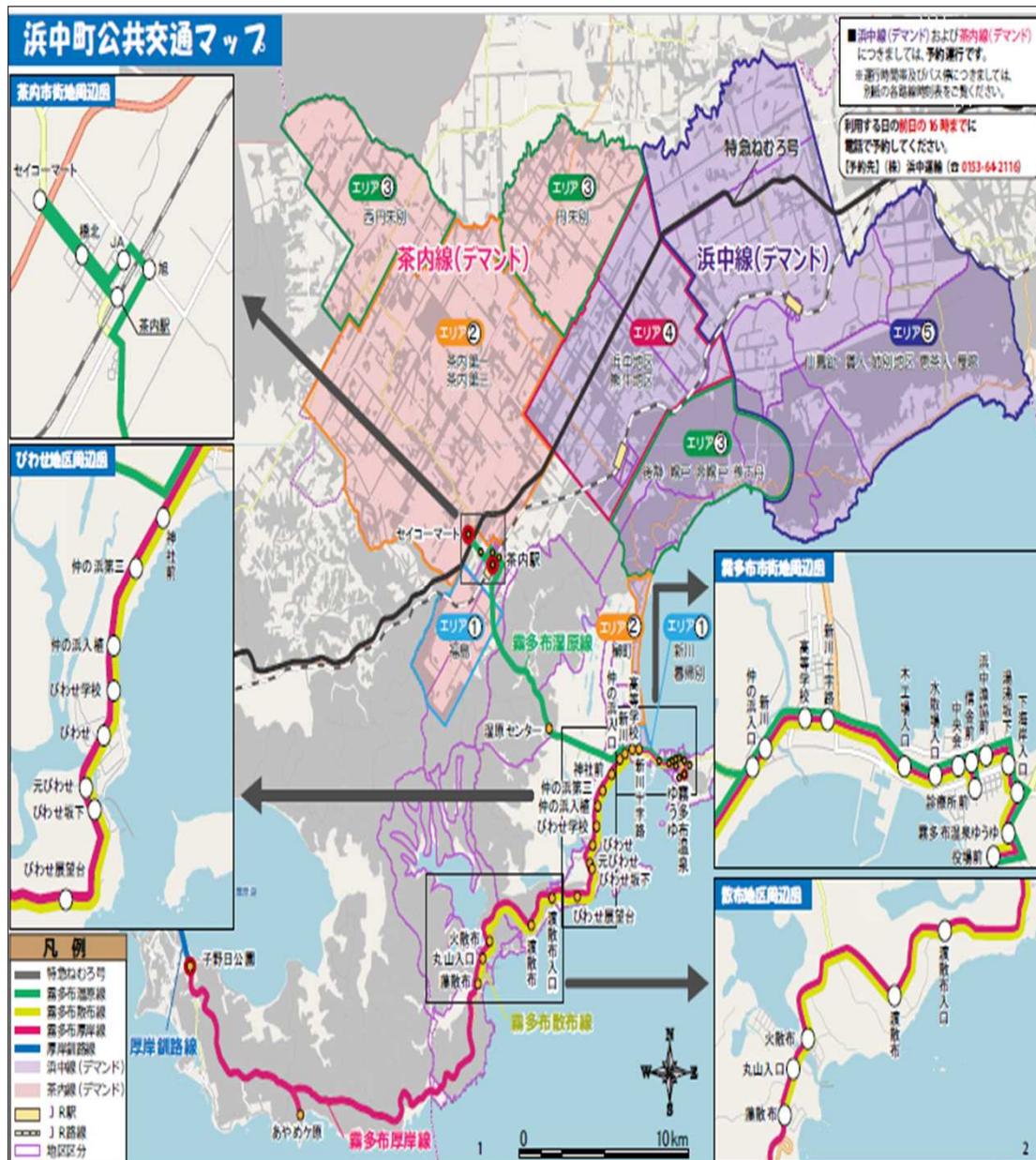
・プロセス

- ①平成30年度から町民を対象とした生活交通に係るアンケート調査・町内公共交通の利用実態調査、町民との意見交換を実施し、町内公共交通のあり方を検討。
- ②令和元年度に町内公共交通網に関する実証運行を実施。
- ③令和2年に「浜中町地域公共交通網形成計画」を策定。
- ④令和2年10月から霧多布湿原線・茶内線・浜中線の本格運行

・創意工夫

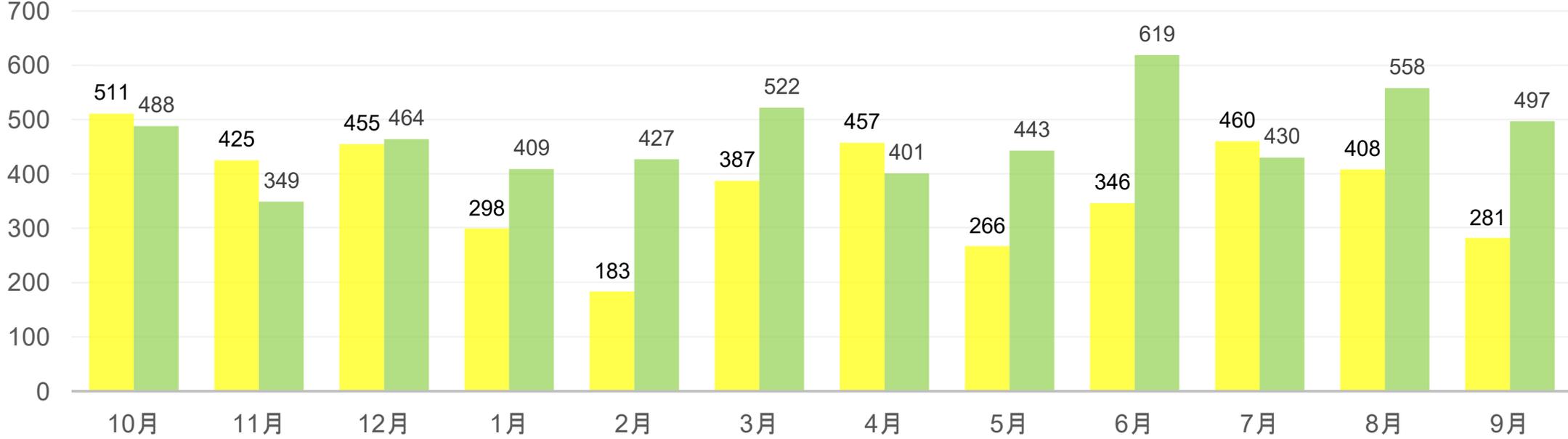
- ①町民や観光客などにも分かりやすい町内公共マップの作成・全戸配布・町ホームページ掲載

2) 運行系統



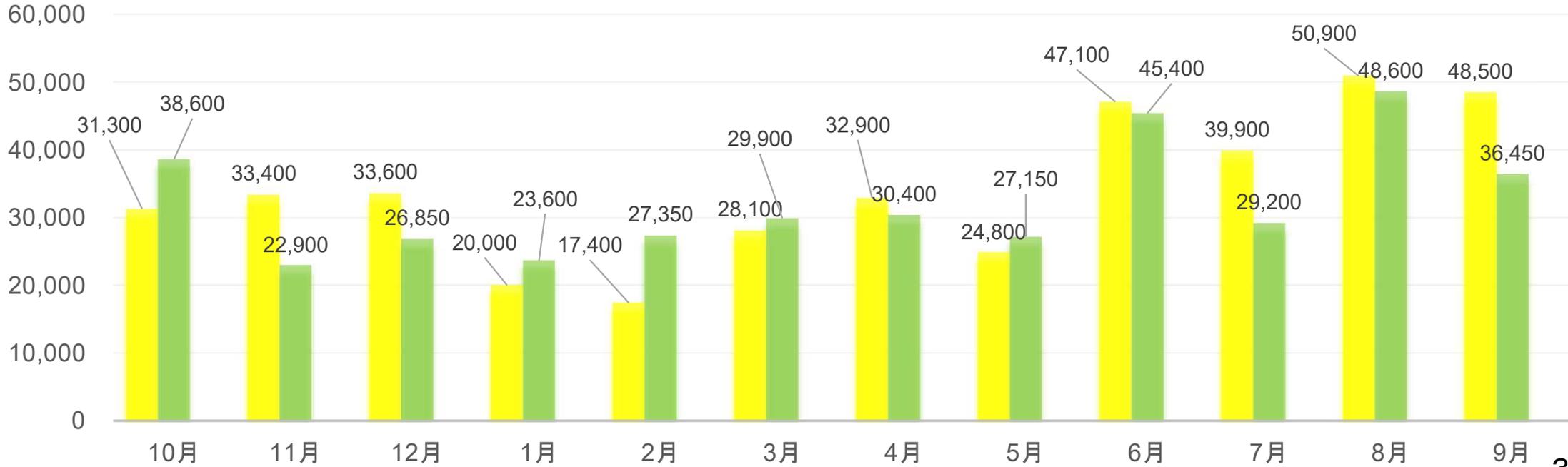
● 利用実績 ■ R4:4,477人 ■ R5:5,607人

(人)



● 収入実績 ■ R4:407,900円 ■ R5:386,400円

(円)



5) 事業実施の適切性

- ・概ね計画どおり実施された。

6) 目標・効果達成状況

霧多布湿原線の利用者数目標値3,150人に対して、4,316人の利用があった。実態として、高齢者の通院や学生の通学、夏場の観光客利用が主な理由となっている。

茶内線・浜中線のデマンドバスについても、利用者数目標値850人のところ、1,291人と目標値を上回った。理由としては、デマンドバス利用者の多くを占める高齢者に対し、予約方法や運行形態の周知を十分に出来た事が理由と考えられる。

7) 事業の今後の改善点

- ・今後、町営バスに地元小中学生から募集したデザインをラッピングし、住民周知と利用促進を図る。
- ・交通マップの全戸配布と、可能な限りワークショップを実施していく。
- ・バス停が遠くて利用しにくい町民に対し、利便性の向上についても検討していく。
- ・時刻表、マップの改善と内容の周知を引き続き進め、利用促進に努める。
- ・JR北海道と連携する等、町民の利便性の向上について検討していく。
- ・観光客の利用について、可能な限り要望に沿うように努める。
- ・破損や老朽化しているバス停留所については、更新を進めていく。

8) 地方運輸局における二次評価結果

- ・自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- ・時刻表・マップの配布の継続など、利用促進に努めたことにより、目標値を上回ったことから、継続した利用促進の取組を期待する。
- ・持続可能な公共交通を維持する観点から、収支率といった事業効率の改善につながる目標を設定することもご検討いただきたい。